

# 麦づくりのポイント（播種前・後の管理）

中讃農業改良普及センター 令和6年10月  
二毛作に取り組み、農地を効率利用

## 1 はじめに

令和6年産は、11月中旬の大雨により、播種が11月上旬と下旬に分散しました。また、2～3月の多雨で排水性の悪いほ場を中心に湿害が発生、さらに成熟期前後の大雨により倒伏、品質低下が見られるとともに、適期収穫が妨げられました。

収量・品質を確保するためにも、水稻の収穫後の排水対策や適期播種など、基本技術の励行を心がけましょう。

また、生産量が増加する中、実需者からは年次変動の少ない安定生産や品質の一層の向上が要請されています。

特に小麦のタンパク質の改善が要請されていますので、追肥重点型の施肥体系など、品質改善に向けた取組みを進めましょう！

## 2 排水対策の徹底

### ◎播種前対策

水稻収穫後、ほ場の周りに溝掘機などで“ヨケ”を設け、降雨後も速やかにほ場外に排水出来るようにしておくほか、スタブルカルチなどによる粗耕起と、溝掘機による“ヨケ”の設置を組み合わせを行い、ほ場の乾田化を進めましょう！



溝掘機



スタブルカルチ

### ◎稲わら処置で乾田化

コンバイン収穫後の稲わらをそのままにしておくと、土壌表面からの水分蒸散が妨げられます。水稻収穫後に浅耕（耕起深3～4cm）して、あらかじめ稲わらをすき込んでおくと、土壌表面の乾燥が進みます。

※耕起が深いと、土壌が水を含みやすくなり、土壌の乾燥が遅れる恐れがあります。



浅耕による土壌の乾田化の様子



### ◎排水溝の設置

播種後は、管理機を用いて、ほ場周田とほ場内の3～5m間隔に排水溝を設置します。

播種後は、雨水が停滞しないように落水口と確実に連結しているか確認しましょう！



落水口と排水溝の連結

## 3 適期播種のすすめ

### ◎適期播種

早めの事前準備（ほ場の排水対策など）による適期播種の励行を！

播種時期が遅れると収量低下、梅雨時期の降雨による収穫の遅れが原因の穂発芽、倒伏など品質・収量低下のリスクが高まります！

播種適期になり、土壌水分が適正になれば、速やかに播種しましょう！

※播種時期が早いとタンパク質の低下を招きやすいため注意しましょう。

### 適期播種で収量品質が最高



図 「さめきの夢2009」の播種期と収量及び外観品質（平成22～24年播の3年平均、農業試験場）

気温の上昇により、播種適期は、遅くなっています！！

表2 品種別の播種適期と播種晩限（平坦部の場合）

品 種	播 種 適 期	播 種 晩 限
イチバンボシ	11月15日～30日	12月25日
さめきの夢2009		12月10日

## 4 雑草防除の徹底

### ◎初期除草剤の散布

古草が残っている場合は、耕起前に非選択性除草剤を散布して、枯らしましょう。播種後の混用散布では、古草が土中に隠れているため、効果が不十分となります。

やむを得ず、ボクサー又はリベレーターフロアブルと非選択性除草剤の混用散布をする場合は、①ボクサー又はリベレーター、②非選択性除草剤の順に混用し、麦類の出芽前までに散布してください。

また、土壌が乾燥すると除草効果が劣るので水量を増やして散布しましょう。なお、栽培のしおりに参照し飛散（ドリフト）しないよう適切に使用しましょう。